

令和4年度第1回恵庭創生懇談会議事録（要旨）

日時	令和4年7月7日（木）13：30～15：00
場所	第2・3委員会室
出席者	小磯 修二（一般社団法人地域研究工房代表理事）
	矢崎 哲夫（恵庭工業クラブ代表幹事（サッポロビール株式会社 北海道工場 副工場長））
	敦澤 良治（恵庭商工会議所 青年部会長（株式会社恵庭クリーンサービス 常務取締役））
	高岡 哲子（学校法人 鶴岡学園 北海道文教大学 人間科学部看護学科教授）
	佐々木 拓司（北海道エコ・動物自然専門学校 教務部長）
	田中 悟史（北洋銀行 恵庭中央支店長）
	金沢 聡（北海道銀行 恵庭支店長）
	三浦 真吾（恵庭記者クラブ（株式会社 あいコミ））
	佐藤 康介（社会保険労務士法人 シェルパ 代表）
	業天 章裕（千歳公共職業安定所 所長）
	阿部 真理（北海道石狩振興局 地域創生部長）
議題	（1）恵庭市総合戦略と恵庭創生懇談会について
	（2）第2期恵庭市総合戦略 数値目標・KPIについて
	（3）令和3年度地方創生推進交付金 交付実績及び効果検証について
	（4）令和4年度地方創生推進交付金 採択状況について
	（5）ポストコロナのまちづくり戦略形成事業について
	（6）その他（第39回全国都市緑化北海道フェア ガーデンフェスタ北海道2022について）

発言者	内容
司会	【次第1. 開会】 企画振興部次長 高橋より開会のあいさつ。
市長	【次第2. 市長あいさつ】 委員の皆さまにおかれましては、暑い中、ご出席いただきましてありがとうございます。また、委員をお引き受けいただきましてありがとうございます。コロナ禍の影響により、本懇談会もしばらく対面で開催できておりませんでした。久しぶりの顔を見ながらの開催となります。

	<p>これまで、恵庭市では第2期総合戦略の4つの基本目標に基づき、さまざまな施策を展開して参りました。6/25に開催しました「ガーデンフェスタ北海道2022」についても、天候にも恵まれ、順調に来場者数が伸びております。コロナ禍で外に出る機会がなかった道民の皆さま方や、道外の方にも多くお越しいただき、花や緑を楽しんでいただいております、大変嬉しく思っております。</p> <p>また、5月末には、ガーデンフェスタのメイン会場である、花の拠点「はなふる」にフェアフィールド・バイ・マリオットの運営でホテルが建設されました。その1週間後には、全国にある人材紹介会社のトップの方々が10名ほどホテルを利用し、2泊ほどワーケーションとしてホテルを利用されました。会議開催のほか、昼には余湖農園の農家レストランで食事をとり、また、夕食は栄恵町の飲食店で交流を深めるなど、ワーケーションの実践例第1号となりました。その方たちのお話をお伺いすると、「非常に良かった。」「交通の便がいいので、北海道であっても集まりやすい。」「非常に良い雰囲気の中で仕事ができる。」とのことでした。これは可能性があるな、と感じたところであり、今後進めていきたいと思っております。</p> <p>また、もう一つは、本日の議題にもございますが、「ポストコロナの恵庭のまちづくり」ということで、職員による政策提言をいただいたところであり、本事業は、小磯先生のご指導をいただいておりますが、今後は政策提言の具体化に向けて検討を進め、総合戦略への反映も想定しております。</p> <p>人口も6月末で70,255人と過去最高を更新しており、これまでの総合戦略に基づくさまざまな施策が浸透してきているのではないかと、また、恵庭に住まいあるいは仕事を求めて来る方々も多くなってきているのではないかと、感じている次第です。とりもなおさず、委員の皆さまにご検討いただいている総合戦略に基づき、事業を推進できているものだと、それがしっかりと活きているということだと感謝を申し上げる次第であります。このガーデンフェスタがきっかけ、レガシーとなって、また新しい施策を考えていかなければいけないと思っております。</p> <p>本日はご出席をいただき、重ねて感謝を申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞ1日よろしく願いいたします。</p>
司会	配布資料の確認及び本懇談会の目的説明。
各委員	<p>【次第3. 恵庭創生懇談会委員あいさつ】</p> <p>委員自己紹介 (事務局自己紹介)</p>
司会	<p>【次第4. 座長選任】</p> <p>事務局案：座長 小磯委員、副座長 阿部委員として委員に諮る。</p>

	<p>委員は全員一致で事務局案を了承、承認。 以下、座長あいさつ。</p>
座長	<p>改めましてよろしく申し上げます。この懇談会がはじまった2015年、もう7年前となりますが、その頃から、私は座長を務めさせていただいております。</p> <p>その当時は地方創生にどう向き合うか、基本的な議論も含めて大変厳しい状態だったわけではありますが、振り返ればこの7年間、恵庭の地方創生の取り組みはかなり自由に進められてきたのではないかと思います。良い意味で国の政策について、それはそれとして受け止めながら、恵庭らしい個性のある取組をしっかりと出していたのではないのでしょうか。全国津々浦々、人口減少によって、自治体の今後が不安視されるなかで、恵庭市については人口が伸びていますね。そのような意味では、恵庭らしさを活かすために、ただ単に国の政策をそのまま受け止めるのではなく、この機会に恵庭としての独自の発展戦略を良い意味でしたたかに組み込みながら、総合戦略を進めていかれたのだと思います。確か総合戦略の改訂や人口ビジョンの改訂は全国で一番早かったのではないのでしょうか。</p> <p>人口が国の考えている方向と違うのだから、恵庭らしく変えていこうではないかと、そのようなマインドでこれからも取り組んでいくことが大切ではないかと、私は感じております。</p> <p>これまでの恵庭の取り組みに対する感想を一言申し上げてご挨拶に代えさせていただきますと思います。</p>
副座長	<p>改めまして、石狩振興局の阿部でございます。北海道では令和3年12月に第2期総合戦略を改訂いたしました。社会情勢での大きな変化を捉えながら、ポストコロナに向けて元気にやっといこうと、さまざまな施策を推進しているところであります。</p> <p>北海道の総合戦略では、地域の実情に応じた市町村の総合戦略を着実に推進していけるように、振興局が地域と共に考えて行動するという役割がしっかりと明記されております。大変微力ではございますが、この懇談会におきまして、少しでも皆さまのお力添えができるように尽力できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>【次第5. 議事】</p> <p>(1) 恵庭市総合戦略と恵庭創生懇談会について</p> <p>(2) 第2期恵庭市総合戦略 数値目標・KPIについて</p>
座長	<p>資料1のP.2に記載のあるデジタル田園都市国家構想基本方針について、これに基づく総合戦略の改訂などの動きはどのようになっているか。</p>
事務局	<p>国から詳細が示されていないため、情報が明らかとなり次第、本懇談会で</p>

	<p>お示しし、地域再生計画や総合戦略の改訂に向けて検討していきたいと考えております。</p>
市長	<p>国の動きでは、これまでの“まち・ひと・しごと創生”から“デジタル田園都市国家構想”に変わるということですが、私の考えとしては、恵庭はこれまでの総合戦略に基づいた施策を展開する、ということで、変わらないものとして考えていきたいと思えます。</p> <p>交付金の申請については、国の動向を見ながら対応することになりますが、私共がこれまでの7年間でやってきたことについては、非常に実績があったと思っております。皆さま方のご意見をお聞きしながら、これからの恵庭のまちづくりについて考えていく、という方針については今後も変えずにしていきたいと思っております。</p> <p>また、国からはデジタルを盛り込んだかたちでの地方版総合戦略の改訂について示されており、第3期恵庭市総合戦略となるか、第2期の見直し案になるか分かりませんが、適宜改訂し、それに基づき施策を推進していきたいと思っております。</p>
座長	<p>私も同感です。恵庭らしいこれまでの取組、これまでの伝統と精神をしっかり活かして、今後の国の動きにも向き合っていくことが大切だと思います。国の動きでも、内閣府が基本的な方針として示していますが、計画の乱立について大きな議論になっています。国のなかでも地方創生の一つの反省点とされています。</p> <p>一方で、デジタルについていえば、恵庭もそうですが、地方自治体における政策実務では遅れています。この国の動きを、デジタル改革を進めていくきっかけとして、受け止めていくべきだと考えます。国の動きが見えてきたら、本懇談会においても報告・相談をお願いします。</p>
副座長	<p>デジタル関係の補足ですが、まさしく今原田市長がおっしゃったとおりで、私共も、あくまで今までの地方創生の流れを変わるわけではない、ただそこにデジタル実装を追加して、地域の社会課題の解決や魅力の向上といった取組を進めていきたいと思いますという視点だと把握しております。</p>
事務局	<p>【次第5．議事】</p> <p>(3) 令和3年度地方創生推進交付金 交付実績及び効果検証について</p> <p>(4) 令和4年度地方創生推進交付金 採択状況について</p>
座長	<p>資料3で報告いただいた恵庭市公式ポータルアプリ「えにわか」のインストール数はどのくらいですか。</p>
事務局	<p>7月2日時点で約1,800件です。アプリ内にある「えにわかナビ」で市内飲食店や観光・体験スポットを示しており、行きたいところがあれば、カテゴリー検索等により現在地からの最短ルートを示すものとなっています。</p>

	当初は動作に不具合もありましたが、現在は iPhone、Android ともスムーズで使いやすいという評価をいただいているところです。
市長	これからポイント付与等、機能を組み入れて進化させていこうとしているところです。ただのお知らせであれば HP と変わりませんが、そうではなく、このアプリを活用してお得感を出せるようになればと考えております。
座長	<p>アプリは、観光客にとっては、“インストールする”という手間が出てくるが、市民にとっては情報発信の一つのツールになるかと思えます。</p> <p>観光情報をゲットするには検索が大事。検索に引っかかるような情報提供をどこまでできるか、その部分で、自治体はかなり遅れていると思えます。例えば Google 検索だと、交通情報だと最低限 Excel の CSV データが必要です。観光客は Google 検索をして出た結果をもとに行き先を決めますが、そうした検索に引っかかるような情報提供が自治体、とりわけ北海道の市町村は弱い印象があります。北海道観光振興機構は、Google で拾ってもらえるような変換作業など、ソフトなインフラ整備を進めています。</p> <p>アプリはもちろん、どのような手段・方法があれば、恵庭において多くの方々が集い、そこで消費が生まれるか、ということを考えることは、情報戦略・デジタル戦略を進めていくうえで大切でしょう。世の中の動きは速いため、それについていき、都度検証していくようにしながら、取組を進めていくことが大事かと思えます。</p> <p>他にご意見等なければ、引き続き事務局より資料説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【次第 5. 議事】</p> <p>(5) ポストコロナのまちづくり戦略形成事業について</p>
座長	<p>本事業の前段となる取り組みを平成 29 年度に実施しています。当初は、職員が、与えられた自分の職務をこなすだけではなく、積極的に恵庭市全体の政策について提案する、というものでした。ゼミ形式で一緒に勉強しながら、4 つのテーマについて検討しましたが、これは自治体職員にとっては画期的なことで、自分が担当している業務以外でも積極的に提案して、それが市長の決断で市の政策となりました。</p> <p>これの第二弾として、今回は、ポストコロナという大変厳しい状況にどう向き合うか、最初の問題提起は私が講演会のなかでさせていただき、それを契機に職員からテーマを募りました。最終的に 5 つのテーマが決定し、勉強会を開始しましたが、勉強会の途中には、私との意見交換会も実施し、それらを経てこの度の政策提言となりました。</p> <p>提案に対し、どう具体化していくかについては、事業担当課との調整も必要ですし、既存の政策とのすり合わせも必要なため、ご検討をいただいているところです。</p>

	<p>ただやはり大事なことは、職員は恵庭市の最大の資源であり財産ということとです。職員のやる気、能力をまちづくりに活かしていくか、新しい挑戦という位置づけで、本事業をご理解いただきたいと思います。</p> <p>他に委員の皆さんからご意見等ございませんか。また、事務局より補足説明等ございませんか。</p>
事務局	<p>【次第 5. 議事】</p> <p>(6) その他…第 39 回全国都市緑化北海道フェア ガーデンフェスタ 北海道 2022 について</p>
市長	<p>私から、冒頭のご挨拶のなかでもお話ししましたが、現在、緑化フェアが大変好調で、多くの方にご来場いただいております。7/24 までの開催期間中、事故もなく無事に済めばいいなと思っておりますが、やはりこのイベントをこれからの恵庭のまちづくりにどう活かしていくか、“ポストガーデンフェスタ”が重要になってくると考えております。</p> <p>ガーデンフェスタの開催 1 週間前に「日本造園学会」があり、北大での総会開催後、翌日に恵庭でシンポジウムを開催しました。そのなかで、特に旅行会社の方からのお話が印象に残っています。その方が言うには、庭造りや花づくりに興味を持っている方々が北海道に来て、ガーデナーの方に学ぶガーデニング大学のような体験型ツアーや、何か月か北海道に来て学ぶ学生のための留学、あるいは興味を持っている方々の受け皿、というようなものがあればいいのではないかと。それを考えたときに、まさに恵庭が最もふさわしい、恵庭が中心となるのではないかと、思いました。そのようなものが“ポストガーデンフェスタ”の可能性の一つになるのではないかと、私個人の考えとしてあります。</p> <p>緑化フェア推進室には現在 20 名ほどの職員がいて、7 月末のイベント終了後、9 月末には規模を縮小することになりますが、来年度までは残務整理のほか、“ポストガーデンフェスタ”について検討するように伝えていきます。今後の恵庭のまちづくりをどうするか、このイベントをレガシーとして残していくようなものを考えていきたいと思っております。例えば、札幌市の百合が原公園についても、緑化フェア開催以降も引き続き整備をして市民の憩いの場になり続けています。</p> <p>“ポストガーデンフェスタ”について、担当部署より提案がありましたら、この場でお示ししながら総合戦略に追加したいと考えております。</p>
座長	<p>今の市長のお話は、幅広い視点からアイデアをいただきながら議論していくという問題提起だったと思います。皆さまいかがでしょうか。</p>
副座長	<p>ガーデンツーリズムというお話ですが、私も去年、ガーデンフェスタに向けたモニターツアーに参加させていただき、それまで花はほとんど触ってき</p>

	<p>ませんでした。そのモニターツアーを通じて、自分でも花を育てはじめています。ガーデンツーリズムは、興味のある方にとっては、とても魅力的なものであろうと考えております。</p> <p>振興局でも去年、ワーケーションに着目し、石狩管内にどんな可能性があるのか、旅行事業者に来ていただいてモニターツアーを実施しました。そのなかで、ある旅行事業者が、花の拠点「はなふる」を見学しながら、「恵庭市さんは移住につながるようなワーケーションに可能性があるのではないか」というお話をしていました。札幌市や新千歳空港にも近く、居住環境も素晴らしい、また、住民主体の「花を基本としたまちづくり」というハッキリとしたコンセプトを打ち出しされている、とても幅広い世代の皆さんに興味を持っていただけるのではないかなというお話がありました。</p> <p>恵庭市さんは、QOL（生活の質）が高いまちづくりを目指していらっしゃると思いますが、そことマッチした受け止めをちゃんと域外の方がされているんだなと感じております。シティセールスはじめ各種事業の推進が順調に成果として表れているのではないかと思います。今回のガーデンフェスタもありますので、また相乗効果で交流人口が増えていくといいなと期待しております。</p>
A 委員	<p>ガーデンフェスタをきっかけに恵庭のまちをPRしていくこと、また、ガーデンフェスタ閉会后にどのような施策を進めて、移住につなげていくか、ということが重要なのではないかと思います。</p>
B 委員	<p>ガーデンフェスタにはまだ行けていないが、非常に大きなイベントだと聞いているので、開催期間中に行きたいと思います。</p>
C 委員	<p>ガーデンフェスタは市民の方が多く関わっていらっしゃるのでしょうか。</p>
市長	<p>はい、市民の方で構成される「サポーターズクラブ」の皆さんは、本当に一生懸命関わってくださっています。開催期間中は、恵み野駅で待機していただき、駅から会場まで続くオープンガーデンをガイドしながら案内してくれています。また、会場の花植えなども、市民の皆さんが主役となってやったださっております。</p>
C 委員	<p>私は介護認定の審査員をさせていただいておりますが、そのときにいつも考えることは、恵庭市の高齢者の方は元気な方が多いなと思っています。お庭を綺麗にするって結構体力がいることですよね。お庭の手入れといった小さなことから、今のお話のようなガーデンフェスタの運営といったような大きなことまで、市民の方がかかわることが多いという仕掛けをしていることが、高齢者の元気につながっているのではないかと思います。</p>
座長	<p>素晴らしいご意見ですね。花のまちが、これからの高齢時代に、実は最</p>

	<p>高のまちづくりなのではないかと、そのようなメッセージだったと思います。ガーデンフェスタ後の今後のまちづくりの大きなヒントになるのではないかと感じました。</p>
D 委員	<p>ガーデンフェスタにはまだ足を運べていませんが、個人的にはガーデニングにも興味があります。資料5に「環境デザイン・ランドスケープ」とありましたが、非常に共感できるところです。物園デザインはイギリスが発祥で、ランドスケープによって動物園がつくられるのですが、日本の動物園はランドスケープになっていないので、自治体がランドスケープを発信することには非常に意味があると思います。</p> <p>花のまちづくりにおいて、若者も想定していると思いますが、若者にとって庭いじりは全く関心がない分野。この辺りをどうするかが一つ課題ではないかと思っています。</p>
E 委員	<p>私はガーデンフェスタ開会の翌日に拝見し、特に市内企業が参加されているガーデンエリアが非常にいいなと感じました。先ほど市長もおっしゃっていましたが、これをどう維持していくか、これだけの花を今後も整備するとなると経済的な資金もかかるでしょうし、整備・維持は相当大変なのではないかと思っています。恵庭市公式アプリについても今さっそくインストールしましたが、このような取り組みももっと恵庭市民にPRしていければいいのではないかと思っています。</p>
F 委員	<p>少し前の「財界さっぽろ」に掲載されていた各市町村の財政状況をみますと、恵庭はトップクラスであり、恵庭に企業進出したいが、工業団地に空きはないかという話が複数件寄せられてもいます。</p> <p>昨今の国際情勢を鑑みても、自衛隊を基盤に持っていることでまた人口も増えていくのではないかと、中長期的には感じています。リーズナブルな住宅地の提供などが実現されればいいのではないかと考えております。人口減少が着実に進んでいる地域では、何かをやろうとしても、人口減少が課題となるが、その点、恵庭の場合は人口が減っていないためすぐに動ける、これは非常にプラス材料だと思います。</p>
G 委員	<p>ガーデンフェスタ初日には市内の保育園・幼稚園に通う子どもたちの発表がステージ上で行われており、コロナ禍でこうしたステージイベントが中止となるなか、無事に開催されて感激したところです。準備期間中も開催期間中もガーデナーや花にかかわる皆さんによる、来場者へのホスピタリティが素晴らしい。ガーデンフェスタ終了後も、花の拠点「はなふる」を活用した花のまちづくりには可能性が秘められていると思います。</p> <p>報告のなかでいえば、Instagram のフォロワーが4倍も伸びているというのは著しい成果だと思います。KPI を見てみるとHPのアクセス数も伸びて</p>

	<p>いるようですが、理由が見えないので、そのあたりの理由を検証していただきたいです。</p> <p>せっかく良い結果なので、検証により、ほかの情報発信にも役立てていくのではないかと思います。</p>
H 委員	<p>以前、恵庭の花のまちづくりに関わる人の高齢化が進んでいるという話を伺いましたが、ガーデンフェスタに合わせて行った種だんごづくりのように、イベント終了後も、30～40代の子育て世代が子どもたちと一緒に土をいじったり花を植えたりといった体験をしていただけるような機会がたくさんあればいいのではないかと思います。</p> <p>Instagramでの情報発信に力を入れているということで、私もSNSの活用によって情報が広がると考えています。私は現在42歳で、どこか観光に行くとなれば、スマホで「地名 観光」などと検索しますが、もっと若い世代になるとInstagramで検索して、観光場所を探す人も多いのではないかと思います。誰に向けての情報発信なのかも意識してSNSを活用できればより良いのではと感じました。</p>
I 委員	<p>先ほどからガーデンフェスタが終わったあとのお話、また前段には、国からの計画が乱立している、というお話もありましたが、それに関わって、私自身、国の交付金事業が継続していかない、という問題を感じています。交付金の採択を受けている間は協議会を立ち上げるなど事業を推進しますが、採択期間が過ぎると協議会が解体され、継続されない事業も多くあります。やはり、終わったあと、どのように続けていくかを考えることが重要なのではないかと思います。</p> <p>KPIの関係で、女性の就業率がアップしているのはすごいこと。道における女性の就業率はM字カーブを示しています。25歳くらいから、子育てが終わる40代前半くらいまでぐっと下がる。全国は意外と下がらないのですが、恵庭市も10年前はやはりかなり下がっていました。要因は分析できていませんが、女性の就業率が上がっているところが非常に魅力的なカーブを描いているのではないかと思います。</p> <p>先ほど高齢者の方が花で生き生きというお話もありましたが、高齢者の就業率も上がっていますので、こちらについても引き続き考えていけばいいのではないかと感じておりました。</p>
市長	<p>市内全体の子ども的人数は減っていても、保育所に入れたいニーズは減っていないと認識しています。市内保育園の運営はいま民間がほとんどですが、定員を増やしている状況です。それにより女性の雇用が増えているのではないかと、また、進出企業も雇用を求めているのではないかと思います。</p> <p>高齢者の雇用についても、シルバー人材センターの会員数が当市では減っ</p>

	<p>ていない状況です。せっかく自宅のお庭を綺麗にしても、高齢でできなくなる方も多いのですが、そのような方たちが庭を維持するためのお手伝いをコミュニティビジネスとしてできないか、これも“ポストガーデンフェスタ”につながる取組になるのではないかと、そうすればまちの景観も維持できるのでは、など、そのようなことについても考えているところです。</p>
座長	<p>市長が“ポストガーデンフェスタ”の議論のなかでおっしゃられた、庭づくりあるいは花のまちづくりを学ぶ場の提供というのは、今後の問題意識として非常に大事な部分だと思います。市長のイメージは、単にスポットとして魅力のある恵庭という地域づくりを越えて、恵庭で花やガーデニングの学びを受け入れるための機能を追加していき、そこに滞在が生まれ、新しい移住が生まれ、新しい業務が生まれるという、まちづくりの考え方として非常に大事なことなのではないかと思います。</p> <p>フェアフィールド・バイ・マリオットが新しく建設されましたが、このような新しい宿泊機能が新たな展開を生んでいます。実は7年前の最初の地方創生の議論のときから、恵庭の最大のウィークポイントは宿泊機能がないこと、という問題意識がありました。それが7年間でひとつのかたちとなった。これは誘致したから来たということだけではなく、世の中の流れも関係しています。ガーデニングを学ぶというところを目指す戦略は、ただ単に宿泊だけでなく、そこで長期の滞在や移住をもたらすという戦略は非常に大事だと思います。</p> <p>また、高等教育機関との連携についてもここ数年の大きなテーマです。高等教育の新しい機能を恵庭のなかでどう創出していくのか、このような高等教育の動きが北海道内においても、いくつか出てきており、恵庭でも前向きな議論で受け止めていければいいのではないかと思います。恵庭のまちづくりに関する提案をしていくと、それを受けてくれる高等教育機関が出てくるのではないかと思います。</p> <p>事務局や委員の皆さんからほかにご意見等ございましたか。それでは、第1回恵庭創生懇談会を終了します。ありがとうございました。</p>
一同	<p>どうもありがとうございました。</p>